

## 【県としての小児接種の基本的な考え方（当面）】

- 当初（3月配分まで）示されているワクチン供給量が少ないことから、まずは、**発症時、重症化の可能性**がある**重度の基礎疾患がある小児を中心に接種**を推進。  
（重度の基礎疾患がある小児患者については、1,000人～1,200人程度を想定）
- 基礎疾患のある小児患者については、接種にあたり「接種できるか否か」を小児科医が慎重に判断する必要があることから、小児かかりつけ医及び「**小児救急中核病院**」を中心とし、県内広域体制により集中的に実施。

## 基礎疾患のある小児接種の対応

### 1 各地域の小児かかりつけ医での個別接種

対象児や保護者とコミュニケーションが取れやすく面識のあるかかりつけ医での個別接種を推奨

### 2 かかりつけ医にて接種できない小児の受け皿として集団接種を実施

- ◇ 個人かかりつけ医ではワクチン接種の最小単位10人を集められない場合
- ◇ 従来のかかりつけ医が別のワクチン接種を進めているため、小児用ワクチン接種に協力できない場合 等

- 接種協力医療機関： 県立こども病院、土浦協同病院、筑波大学附属病院
- 接種会場： 県大規模接種会場の一部を使用

### 【集団接種の場合（想定）】

接種日	：	3月6日（日曜日）～ 週1回程度
接種会場	：	県大規模接種会場 2会場（県央・県南）
接種人数	：	計500人程度